

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		Next Step基山		公表日 令和8年9月17日			
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	1	活動に関しては利用人数や活動の内容に応じて体育館や公園などの公共施設を利用している。予定に関しては限られたスペースで他の児童等をその日の児童数や状況に応じて変えて対応している。	活動スペースと学習スペースが分けられたらと思う	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	0			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	2		事務所がもう少し広いと（スタッフの）作業がしやすいと思う	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	1			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	2	与えられたスペースの中で、完全な個室空間は難しいため、必要に応じて個室も活用しながら各児童の様子や状況に合わせて関わっています。	個別の部屋が無い。場所もない。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	1	勤務日数や勤務時間が常勤・非常勤によって異なり、情報伝達の場が生じることはあるため、共通で把握できる手段の利用や各児童の記録の管理を簡便な手段で実施する機会を設けています。	正社員とパートとの間での情報共有が確実	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	保護者の意見から、運営や支援、保護者との関わりについて共有し、見直し調整を各スタッフが行っている		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	5			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	2	関係機関の主催する研修会や資格取得のための講習会などの研修を積極的に参加している。今後も外部の講習会などの参加を通して、発達障害などを関係しての向上を図ります。	定められた研修を行なっているが事業所内の研修は不足している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	0			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	1	将来を見据えての療育を案に心がけ、今できないことや課題となっていることを、「課題」として共有し、各スタッフがそれぞれに対してアプローチ出来るように、得意不得意を共有して行なっています。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	1			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域連携・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	児童が楽しめるような活動を常に企画できるように心がけています。また、活動の目的なども設定して実施しています。また、児童の意見や反応なども参考にしながら活動に生かしています。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4	1	小集団の中での集団活動が中心となり、マンツーマンでの活動は人員配置の中で難しい面もありますが、個別の課題に対して個々のスタッフが各児童と個別で関わる機会を積極的に取るようにしています。	個別活動はできていない	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	スタッフ間と情報共有しやすい環境をつくるために、支援システムの導入を予定しています。	下校時間によってはその日のスタッフが揃っていない。申し送りや役割分担の共有が難しい点もある。	
	21	支援終了後は、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1	支援終了後の活動や勤務時間の兼ね合いで、業務終了時の毎週などの時間的制約が厳しいケースに対しては、共通のツールでの情報共有を行ったり、翌日（翌週）の朝礼（朝礼）で共有することとしています。	その日の申し送りが出来ていない	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	支援記録には時間を割き、日々の様子を各児童さん毎に各スタッフの視点から記録することを入れている。その経過記録も資料として関係者に活かせるようにしている。		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	0			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	5	0			

関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参加しているか。	5	0		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の遅延等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	1		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	0		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供するなどしているか。	0	5		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	2		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	2		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	2		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	4		
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	1	こま目の様子などを電話以外で、送迎時、公式ライン、電話などを活用しながら保護者様との関わりを継続します。また、保護者様との連携強化を目的に支援システムを導入します（遠慮や様子をお知らせ）。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	3	児童に対する関わりを支援するための情報共有や、今後の目標などを設定する機会を作る場として保護者参加型のイベントを企画してまいります。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	個人情報の取り扱いについて、職員全体でルールを共有するとともに、情報管理の意識づけを常に怠らない。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	2	・招待することはいないが、近隣の方とは必要に応じて交流を図っている。 ・グループ会社の介護事業との連携で、児童/職場体験も兼ねて選定した実績もあります。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	1		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	1		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4	1		
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づき対応がされているか。	5	0		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	1	安全管理に必要な研修づけや対応は行っている。	安全計画に基づく研修、訓練、意識付けについては、個別の事業も兼ねて、更に充実する必要性があるため、計画に沿った運用と実施の状況の確認を更に強化する。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	1		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3	2	虐待防止マニュアルをもとに、虐待防止の重要性を把握し、適切な対応ができるよう努めている。	虐待防止に関する外部研修などの積極的な参加も取組み、職員全体で共通認識を持つ仕組みを構築する。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	1	身体拘束に対して基本的な考えを共有して、慎重な対応を行う要請を職員と共有し、徹底している。	身体拘束を行った事例はないが、マニュアルの策定はしている